

協力団体 寒川町肢体不自由児者父母の会
寒川町聴覚障害者協会
寒川町手をつなぐ育成会
寒川町視覚障害者福祉協会
茅ヶ崎地区自閉症児・者親の会

福祉団体への聞き取り結果からの主な課題について

1.通所先等の福祉施設の不足

| ご意見の内容 |
|--|
| 町内外問わず、通える福祉施設が少ない。入りたいと思っても定員一杯などで入れないことが多い。 |
| 入所施設やグループホームが少ない。短期入所先が少ない。緊急受入先などが寒川町にも出来たらいい。 |
| 町に作業所(=福祉施設)がもっと欲しい。地域で生活するために、医療のケアも出来る短期入所先が町にあるといい。他市にある短期入所でも、夜に看護師が居ない場所もあり、本人のケアが必要と考えたら預けるのを躊躇してしまう。 |
| グループホームは夜間や日中に支援が無いものも多く、入居できたはいいが放っておかれてしまうのは困る。地域移行の考え方もあるのは知っているが、施設に入らないと生活が難しい重度の方も多い。 |
| そこに行くとイベントがあり、本人の時間が潰せる障がい者サロンが欲しい。小さい子供も行けるようなのもともっといい。作業所が終わったあとに寄れる場所が欲しい。社協で行っている障がい者サロンは年2回で花見と芋ほりしかない。 |
| 障がい福祉サービスを受けるだけでなく、何か外に出る機会が欲しい。障がい者サロンなどはどうしてないのか？何か生き甲斐が欲しい。 |
| 移動支援のヘルパーを使いたい、ヘルパーが不足利用できていない。同行援護のヘルパーも、居宅介護のヘルパーも足りない。ヘルパーが増えるといい。 |



| 課題 |
|----------|
| ・福祉施設の確保 |
| ・通所先の確保 |
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |



| 次期計画時での対応すべき施策 |
|----------------|
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |

2.生活への不安・相談

| ご意見の内容 |
|---|
| 学生の間は学校の先生に障がいについて相談していたが、学年が変わったりすることで相談先がコロコロ変わってしまう。継続的に相談できるシステムが欲しい。 |
| 子どもの将来が不安。施設に入るのはどのくらいお金が掛かるのかわからず、漠然とした不安がある。情報を教えてくれる先が欲しい。 |
| 学齢期以降、30代、40代など、本人の将来についてや障がいについて聞ける場が継続的に欲しい。重複障がいなど、最先端の障がいに関する情報を集めてくれるところが欲しい。 |
| 障がいから介護への移行について、本人の収入が障がい年金だけの場合が多く、普通の老人ホームに入るの厳しい。自分の年金だけでやっていける位の老人ホームはあるのか。障がいと同程度のサービスを受けることができるのか不安がある。 |
| 障害にもっと早く気が付いて、適切な療育が小さいうちから行われたらよかったと思うことがある。障害についての正しい情報が得られる場所や、丁寧に寄り添ってくれる保健士などがいるといい。 |
| 保育園や普通級の親にとっても、障害について情報が得やすい場所があったらいい。よろず相談所のような気軽に相談できる場所はないか。 |
| ことばの教室などをかって利用していたが、教育委員会と福祉課の連携が不十分だと思う。学校側にも障がいへの理解が欲しい。必要な療育について、教育の現場から福祉課へしっかりと繋ぐ必要があると思う。 |
| 大人になってから障がいになった時、医師から障害者手帳を取るように勧められることもなかった。何をしたらいいのかわからなかった。相談窓口がどこにあるのかわからなかった。ケースバイケースで訪問・電話などサポートしてもらえる体制が欲しい。 |



| 課題 |
|-----------------------------|
| ・安心し、継続的に相談できる場の確保と、質の更なる向上 |
| ・障がいに関する情報提供 |
| ・教育における障がいに応じた配慮や支援体制 |
| ・ |
| ・ |



| 次期計画時での対応すべき施策 |
|----------------|
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |

3.地域での生活

| ご意見の内容 |
|---|
| 自閉症の子供が居ると話すと、家を借りたくても、不動産会社や大家から断られてしまうことが多い。身体障がい者(車いす)は可能と言われた。障がいに対する理解がない。 |
| アパートを借りたいと思ったが、夫婦二人とも聴覚障がいのため、不動産会社や大家から断られた。障がいに対する理解がない。 |
| 病院の予約について、FAXでも取れるようになった所が増えてきて助かっているが、返事が遅いことがある。調子が悪く、今、受診出来るのか知りたいときに不便。 |
| 電車の駅に電光掲示による文字表示が欲しい。事故で電車が止まり混んでいる時も理由が分からず困った。自動券売機でも購入を間違えた時に押すボタンは会話対応しかない。駅員が居ない時困ってしまう。 |
| 日常生活用具における火災警報器や屋内信号装置など、生活状況に合わせて支給を見直してほしい。 |
| 近所で火事があったときに、サイレンが聞こえないため気が付かず、雨戸を開いたら火の手が迫っていた。近所の方は誰も教えてくれなかったため、声を掛けてほしいと思った。 |
| 役場内や町民センターに設置されているテレビについて、字幕対応をしてほしい。今は放送されていないが、寒川町の広報番組などについては字幕と手話を付けてほしい。 |
| 障がい者用駐車場について、車いすを利用している障がい者は降りるスペースが無いと利用できない。施設により右側だけしか空いていない所などがある。出入口から近い所にある駐車場は他の障がいの方が利用している場合がある。今後は施設に対して多少出入口から遠くてもいいので、車いすの乗り降りが容易な、左右に広いスペースのある障がい者用駐車場を設置するようにしてほしい。 |
| 町の防災訓練に行っても、お客さん扱いで何も出来なかった。地域の人に障害を知られてもいいから、地域の中に溶け込みたいと思っている。民生委員も変わってしまうと訪問が無くなり、今は誰が民生委員なのか分からない。 |



| 課題 |
|--|
| ・民間事業所や自治会など、地域生活における障がいへの理解と、障がい者に配慮したまちづくり |
| ・災害対策に向けた地域全体での取り組みと、それぞれの役割の検討 |
| ・情報提供に関する配慮 |
| ・地域で自立して暮らせる場の確保 |
| ・ |
| ・ |



| 次期計画時での対応すべき施策 |
|----------------|
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |

4.障害への理解・周知

| ご意見の内容 |
|--|
| ヘルプマークの障がいの範囲が広すぎる。自閉症は見かけで分からない。コミュニケーションが取れないという自閉症用のマークが欲しい。 |
| ヘルプマークを一般の方にも広く知ってもらいたい。行政の入口や駅などにポスターを貼れないか。ヘルプマークがあることで災害などの時に対応してもらえるようになるという。 |
| 高機能自閉症にて障がい者雇用をされている方がいる。話しかけられたことが分からず反応しなかったため怒られることがあった。障がい者雇用なのに、障がいについて理解していない企業がある。 |
| 自閉症の理解促進のためライト・イット・アット・ブルー運動を行っている。江ノ島のブルーライトアップなど。町も参加できないか。 |
| 来客時、インターホンのお知らせランプに気が付いてから慌てて玄関に行っても、間に合わず帰られてしまうことがある。インターホンで「少し待って下さい」と言えないことにも理解が欲しい。 |
| 手話について、町の職員や病院の医師も簡単なあいさつなどは出来るようになってほしい。 |
| 自治会の担当について、自分がやってみたくとも順番を飛ばされてしまいやったことがない。自治会の担当者が変わった時など、障がいに対する理解がなく伝達内容を書いてくれない人がいる。 |
| 多目的トイレについて、先に人が並んでいる時などは車いすで並んでも優先にならない。以前中の人々が30分程度出てこないことがあり、なぜかと思っていたら、中のシャワーで子供の身体を洗っていたことがあった。どうしてトイレに広いスペースが必要なのか、周囲の理解が乏しいと感じた。 |
| 車いすマークは『乗り降りにスペースが必要な方』。それ以外の障がいとマークの区別があってもいいのではと思う。 |
| 点字シールについて、役場からの通知であっても貼っていないことがある。役場全体に周知してもらいたい。役場の職員も、一度自己紹介されただけでは分からないので、最初は名乗って欲しい。 |



| 課題 |
|---------------|
| ・障がいに対する理解の促進 |
| ・障がいに対する啓発活動 |
| ・ |
| ・ |
| ・ |



| 次期計画時での対応すべき施策 |
|----------------|
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |
| ・ |